

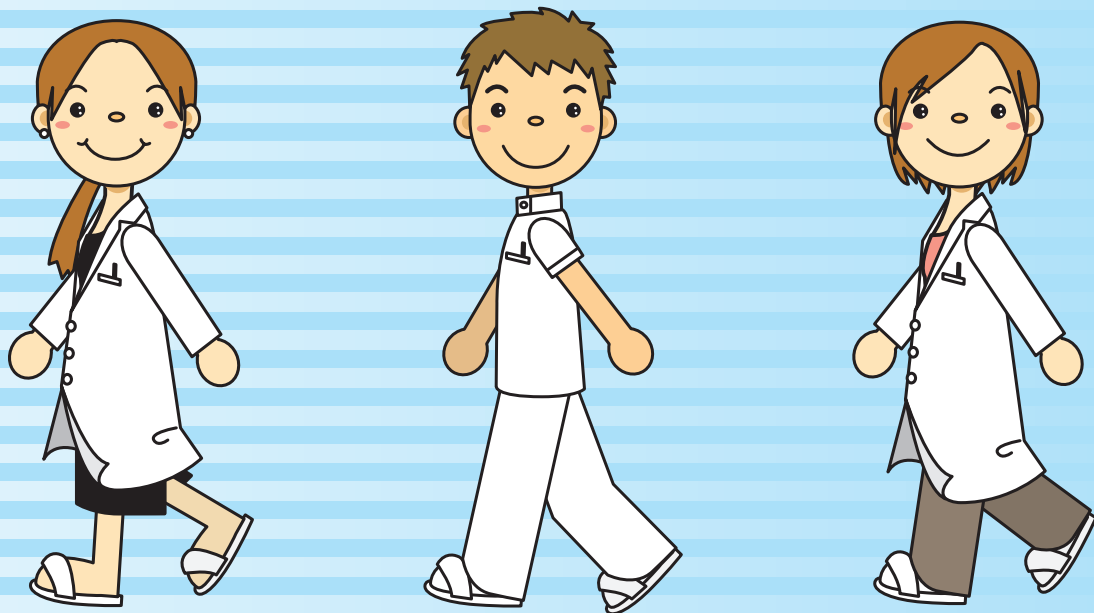
「臨床工学技士法」施行20周年を迎え

(社)日本臨床工学技士会

若手会員への提起

(～若手会員意識調査結果をふまえて～)

～社会は若き臨床工学技士の更なる活躍を期待しています!～



平成20年3月

社団法人 日本臨床工学技士会

組織委員会・人材活性化委員会 (Young-Board)

- 注：1. “Young-Board(ヤング・ボード)”とは、昨年5月に組織委員会の傘下組織として発足した20～30歳代の若手会員で構成されるグループで、(社)日本臨床工学技士会の組織力を向上させたいとの思いから自薦・他薦で応募され、選考された若手会員のグループです。(本小冊子では“Y-Board”といいます)
2. 本小冊子で“若手会員”と記された会員は現在20～30歳代の会員各位です。
3. 本小冊子は若手会員を対象としたものですが、今後若手会員に対して種々助言等を賜りたいため、当会の全会員へ送付しています。

1 はじめに

会長 川崎 忠行 のことば



「臨床工学技士法」施行20周年を迎えるにあたり、昨今の医療機器の専門職である臨床工学技士をとりまく環境は、良い方向に急激に変化をしつつあります。

その具体的な例として：

1. 平成19年4月に改正医療法が施行され、医療機器安全管理責任者の医療機関内の配置が義務づけされたこと
2. 平成19年12月には臨床工学技士の積極的な活用を促す厚生労働省医政局長通知が発出されたこと
3. 平成20年4月から医療機器事業者による“立会い”が規制され、臨床工学技士の本来の役割期待が再認識されつつあること
4. 中央社会保険医療協議会から提示された平成20年度の診療報酬改定の基本方針のなかに、臨床工学技士の業務に関する加算が示されたこと

等が実現し、我々臨床工学技士にとってフォローの風が吹き始めたことと共に、社会的にも臨床工学技士への期待も急激に高まりつつあります。

これは諸先輩をはじめ、皆様の当会に対する種々ご支援の結果であり、厚く御礼申し上げます。

また当会としましては、このような昨今の流れを臨床工学技士にとって好機と捉え、学術技能の研鑽・資質の向上等をはかりつつ、与えられた臨床工学技士の社会的使命達成に更なる注力をしてゆき、結果として臨床工学技士の業務拡大及び地位向上等に尽力してゆきたいと思っておりますが、これからは当会会員数の約70%を占める若手会員が活躍すべき時代です。

今後、若手会員が一丸となって行動し、これからの臨床工学技士(会)に寄与されることを期待いたします。

～社会は若き臨床工学技士の更なる活躍を期待しています！～

2 組織力向上に向けたこれまでの行動の軌跡

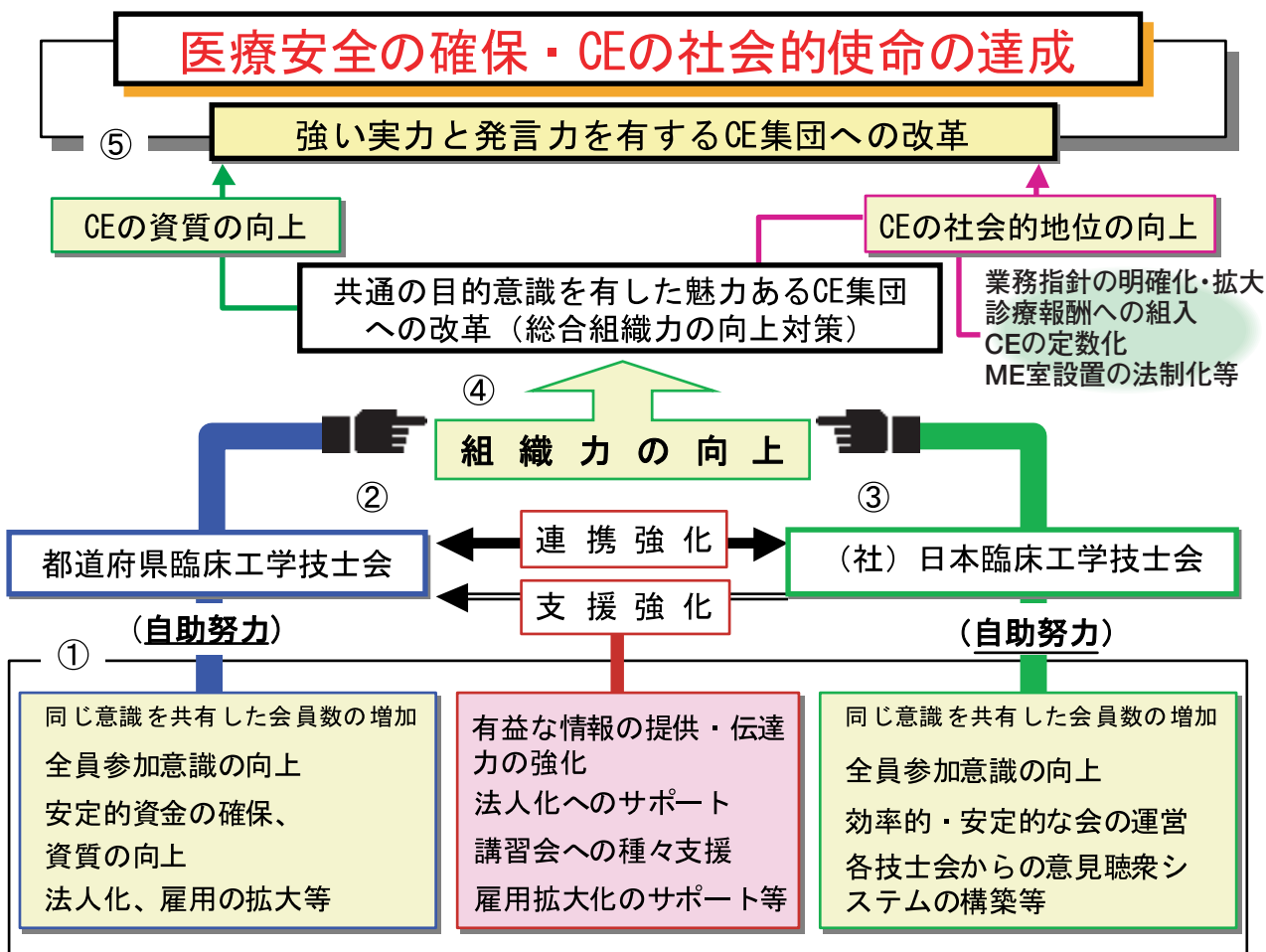
組織委員会は平成17年4月に発足し、組織力向上に向けて色々な行動を行なってきましたが、その行動の軌跡を紹介します。

1) 平成18年6月、神戸市において「第1回全国臨床工学技士会代表者意見交換会」を開催しました。

メインテーマ：都道府県臨床工学技士会・（社）日本臨床工学技士会の更なる飛躍のために
～組織力向上対策～

アンケートの実施

結論として下図で示した内容が、会員総意の理解、達成目標としての認識を共有するに至り、かつ今後の日臨工の行動指針として決定されました。



結論の要旨として…：

“資質の向上”と共に“CEの社会的地位の向上”が全会員共通の認識として謳われました。具体的には業務指針の明確化・拡大、臨床工学技士業務の診療報酬への組入れ、CEの配置の定数化、ME室設置の法制化等ですが、その後の精力的な活動の結果、下記のこと等が実現に繋がりました。

- (1) 医療機器安全管理責任者の医療機関内の配置が義務づけされたこと
- (2) 臨床工学技士の積極的な活用を促す厚生労働省医政局長通知が発出されたこと
- (3) “立会い”が規制され、臨床工学技士の本来の役割期待が再認識されつつあること
- (4) 中央社会保険医療協議会から提示された平成20年度の診療報酬改定の基本方針のなかに、臨床工学技士の業務に関する加算が示されたこと

2) 平成19年5月、名古屋市において「第2回全国臨床工学技士会代表者意見交換会」を開催しました。

メインテーマ：昨年度のフォローアップ と “公益法人制度改革と一般社団法人の設立”

結論として (1) 若手会員による「Young - Board」の設置及びの意識調査アンケートの実施
(2) 「法人化対応委員会」の設置及びアンケートの実施
を決議しました。

3) 平成20年5月、秋田市において「第3回全国臨床工学技士会代表者意見交換会」を開催します。

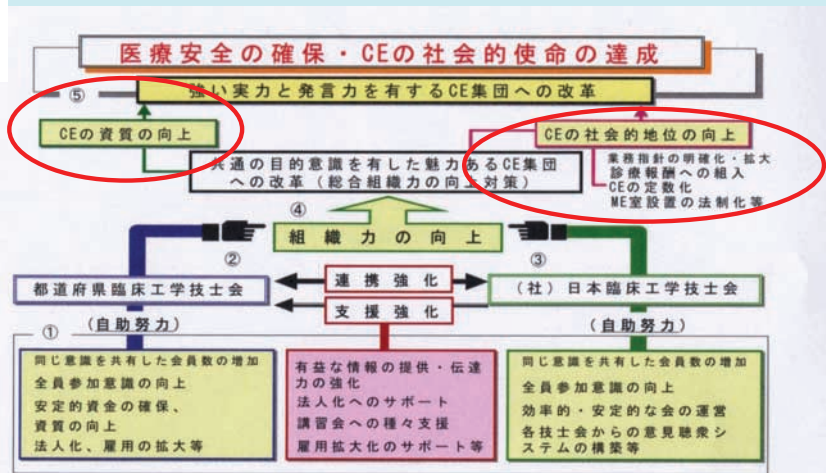
メインテーマ（案）： (1) 若手会員の意識調査結果に基づく行動指針の策定（事後報告）
(2) アンケート調査結果による全国一斉一般社団法人化対策策定
について、実施した各アンケート結果にもとづき協議をします。



〔日臨工へ期待すること〕の多数意見

- ・ CEの地位向上策の実現
- ・ 業務指針の明確化・拡大化
- ・ CEの社会的知名度向上の活動
- ・ 資質向上のためのセミナーや講習会等の拡充
- ・ **女性技士の地位の向上や両立支援策**

日臨工の行動指針



【日臨工の行動指針と若手会員が日臨工へ期待することが一致しています！】

これからは**会員70%**を占める**20代30代の若手技士**の出番！

会員に与えられた権利の行使

選挙の投票

委任状の提出

アンケートの回答

若手技士全体の大きい声 = 【日臨工全体の声に直結します】

厚生労働省

他医療関係団体

日臨工・各都道府県技士会

輝く未来の臨床工学技士(会)の構築



輝ける臨床工学技士の未来のために 私たちは何をすべきか？



では、どのようにすれば日本臨床工学技士会の活動に参画出来るのでしょうか？

それは会員各位が、**会員であるが故に保有している当然の「権利」**を行使することにあります。

もちろん会員各位が直接日本臨床工学技士会の活動に参画出来る機会があるとは思いますが、全ての日本臨床工学技士会の活動に参画することは物理的に不可能でしょう。

従って各位が保有している全ての権利を行使するには、例えば選挙への投票、総会への参画又は委任状の提出、及び、各アンケートに対する回答書の提出等を、**会員一人一人が必ず対応することが権利の行使につながり、結果として日本臨床工学技士会の総意に繋がります。**

若手会員各位!!

選挙への投票、総会への参画又は委任状の提出、及び、各アンケートに対する回答書の提出等を必ず行うことが各位に与えられた権利（全員参加の観点からは義務といえるかもしれません）の行使であり、結果として明日の臨床工学技士（会）の輝く未来に繋がります！

臨床工学技士（会）の輝く未来を達成するには、**先ず役員選挙への投票、総会への参画（委任状提出）及び各アンケート等への個人個人が対応することからはじめます！**

5 おわりに

“日臨工をどぎゃんかせんといかん”という志のもとに、私たちY-Boardは“強い臨床工学技士集団の形成”へ繋がる共通の高い目的意識を持った全員参加型の会への改革を目標として活動を始めた所です。

Y-Boardでは20代、30代若手会員を対象にアンケートを実施し、2000通を超える返答をいただきました。御協力いただき誠にありがとうございました。今回のアンケート結果を“若手会員の生の声”として今後の人材活性、組織力向上、女性技士の仕事と家庭の両立支援に向けての活動に活用していきたいと思えます。

尚、アンケート結果の詳細と日本臨床工学技士会からの対策、提案につきましては5月に秋田県で開かれる“第3回全国代表者意見交換会”及び“第18回日本臨床工学会”にて発表させていただきます。皆様、是非秋田にお越しください。そして直接意見交換し日本臨床工学技士会の将来について熱く語り合いましょう。

これからの日本臨床工学技士会をより大きく、より強く変えていくにはあなたの力が必要です。**日本臨床工学技士会が強い組織になる ▶ 臨床工学技士の社会的地位が向上する ▶ 会員一人一人のモチベーションが上がる ▶ 患者様により良い医療を提供できる ▶ 患者様が幸せになれる** このステップを1歩ずつ登っていくには積極的に活動に参加してください。そして意見、要望を直接伝えることで夢のある明日の日本臨床工学技士会と一緒に作りましょう！

Y - Board 一同



組織委員会 Y-Boardのメンバー

組 織 委 員 会

| | | | |
|-----|--------|------------------------|---------|
| 委員長 | 出口 英二 | 中町赤十字病院 | 臨床工学技術課 |
| 委員 | 三瀬 文明 | 医療法人 半羽胃腸病院 | 透析室 |
| | 田中 和彦 | 医療法人 健正会 須田医院 | 臨床工学課 |
| | 西山 博司 | 学校法人 中部大学 中部大学技術医療専門学校 | 臨床工学技士科 |
| | 久郷 稔 | 近江八幡市立総合医療センター | MEセンター |
| | 右田 平八 | 医療法人 社団 恵愛会 大分中村病院 | 臨床工学部 |
| | 田中 昭彦 | 重井医学研究所附属病院 | 臨床工学部 |
| | 日沼 吉孝 | 秋田県立脳血管研究センター | 臨床工学室 |
| | 高橋 満彦 | 原口内科・腎クリニック | 透析室・事務 |
| | 引間 さと江 | みしま勝和クリニック | 透析室 |
| | 井福 武志 | 特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院 | 臨床工学室 |

(順不同)

人材活性化委員会 (Young-Board)

| | | | |
|--------|--------|--------------------|---------|
| 委員長(兼) | 出口 英二 | 中町赤十字病院 | 臨床工学技術課 |
| 委員 | 守澤 隆仁 | 医療法人 あけぼの会 花園病院 | 透析室 |
| | 西岡 幹人 | 医療法人 協立病院 | CE部 |
| | 熊切 こず恵 | 医療法人 社団 誠仁会 みはま病院 | ME部 |
| | 奥田 重之 | 野上病院 | 臨床工学部 |
| | 児玉 博樹 | 医療法人 財団 聖十字会 西日本病院 | 臨床工学部 |
| | 岩崎 共香 | 北里大学 東病院 | MEセンター部 |
| | 藤原 千尋 | 岡山大学病院 | 血液浄化療法部 |
| | 長谷川 静香 | 名古屋大学 医学部 附属病院 | 臨床工学室 |
| | | | 臨床工学技術部 |

(順不同)

(社)日本臨床工学技士会若手会員への提起

平成20年3月31日 発行

発 行 社団法人日本臨床工学技士会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-4-3

ヒルズ884 ・お茶の水ビル4F

電話 03-5805-2515 FAX 03-5805-2516

発 行 人 川崎 忠行

編 集 組織委員会・人材活性化委員会 (Young-Board)

制作・印刷 日本印刷株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-3-3

